
学内活動報告

順天堂大学保健看護学部 順天堂大学保健看護研究 8
P.96 - 105 (2020)

基礎看護実習Ⅱにおけるルーブリック評価の試み

Trial of Rubric Evaluation in Fundamental Nursing Practice II

高 桑 優 子*
TAKAKUWA Yuko

笹 野 幸 春*
SASANO Yukiharu

山 本 哲 子*
YAMAMOTO Tetsuko

石 塚 淳 子*
ISHIZUKA Junko

要 旨

順天堂大学保健看護学部の基礎看護実習は看護ケアの基礎を再認識し、学生理解を深める機会として、基礎看護領域の教員だけでなく、他領域の教員も基礎看護実習指導に関わっており、基礎看護実習の到達度を評価する場合、評価の水準や判断がしにくいという傾向にあった。そこで公平性、客観性、平等性があり、教員と学生の共通したフィードバック機能を有するルーブリック評価を、基礎看護実習Ⅱに導入した。2019年度基礎看護実習Ⅱルーブリック評価表は2018年度基礎看護実習Ⅱ評価表を基に実習目標と、行動目標からなる評価観点と、評価尺度を持った評価表として完成した。実際に使用し、その後実施した学生と教員のアンケート調査結果からは、実習の到達度の明確さ、到達目標や実施すべき内容の可視化、改善点や目指す目標の明確化、学生にとり妥当性のある評価、複数の教員間での教育に関する考え方の共有化、評価の一貫性など、おおむね使いやすい評価表であるとの回答を得た。教員からは評価基準や評価尺度に関して改善の余地があることが示され、これらから効果的な実習評価作成の示唆を得た。

索引用語：基礎看護実習、ルーブリック評価、実習評価

Key words：Fundamental nursing practice, Rubric evaluation, Practical evaluation

1. はじめに

看護学実習は講義や演習を通して修得した知識や技術を実際の現場で活用、展開する形態の授業¹⁾であり、学習課題はなにか、その評価をどのように行うかということが問われてきた。特に順天堂大学保健看護学部では、基礎看護実習を臨地実習のベースと位置付けている。基礎看護実習での学びを基に領域実習、看護総合実習へ学習を積み上げ、卒業時において「科学的根

拠に基づいた看護基礎力を身につけ、心身を癒す看護実践能力を修得する」という教育目標につながるこの考え方から、看護ケアの基礎を再認識し、学生理解を深める機会として、基礎看護実習の指導は基礎看護領域の教員だけでなく、他領域の教員が実習指導に関わっている。そのため基礎看護実習の到達度を評価する場合、個人の尺度や価値観によって評価が不均等となるリスクがあり、また他領域の教員からは、どの水準までを求めてよいかとの判断が明らかでなく評価がしにくいという傾向にあった。そこで今回、公平性、客観性、平等性があり、教員と学生の共通したフィー

* 順天堂大学保健看護学部

* *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

(Nov. 8, 2019 原稿受付) (Jan. 31, 2020 原稿受領)

ドバック機能を有するパフォーマンス評価に適したルーブリック評価²⁾を、基礎看護実習Ⅱに導入した。基礎看護実習Ⅱは2年次に実施する2単位の实習で、看護計画立案を行い、入院生活を送る患者の健康障害及び治療生活状況を理解し、患者の状態に応じた生活援助を実施し、看護チームの一員としての役割と倫理的姿勢を身につけることを目的とした実習である。この実習のルーブリック評価導入に向けて作成過程と試用に向けた取り組みについて報告を行う。

II. ルーブリック評価表作成の過程

1. ルーブリック評価を基礎看護実習で実施する意義

前述の通り本学の基礎看護実習は多くの領域の教員が実習に関与していることから、①客観的に評価できる実習評価表を作成する必要があると言える。また②担当する教員にとって、実習の到達度が明確になり、同時に③学生にとって到達目標や実施すべき内容が可視化でき理解しやすい評価であることが求められる。実習のどの時期にあっても④学生にとって不足部分のフィードバックが受けやすく、改善点や目指す目標が明確になり、⑤学生を正しく評価することができる必要があるが、一方で⑥教員は評価を短時間で言いやすいことも重要となる。⑦複数の教員で教育に関する考え方を共有しやすいこと、そして、多くの教員が関わる基礎看護実習において最も意義があるのは⑧教員の評価が一貫性を持つることと考える。

2. ルーブリック評価作成のポイント

ルーブリックに関する参考文献からルーブリックの構成要素となる「学習課題」、「評価尺度」、「評価観点」、「評価基準」を明らかにすることとした。今回のルーブリックは前年に使用した実習目標、行動目標と同じ項目である2018年度基礎看護実習Ⅱの実習評価表(表1)を基に作成することにした。

「学習課題」とは、目標に対して学生に獲得させたい能力や技能を培うために課すもので、学生の行動の

指針となるものである。そのため、実習における指針である実習目標を学習課題とし、使用した。「評価尺度」は評価水準をいくつかの段階に分けたもので、課題の到達状況を判断するものである。一般的にはルーブリック使用の初心者は3段階が判定しやすい³⁾と述べられており、評価尺度は3つ程度とした。「評価観点」は学習課題としての具体的なスキルやコンピテンシーを表現したもので、学生に学ばせたいこと、できるようになってほしい事である。2018年度の基礎看護実習Ⅱの実習評価表の「評価項目」を「この項目で学生に求めていること」と判断し、これに沿って「評価観点」を導いた。言葉のニュアンスや表現方法から、本来のスキルやコンピテンシーを示していないことや、実習目標からずれてしまっている場合もあり、評価観点が明確になるように、また目標に関する評価観点は2～6個に整理し調整した。「評価基準」とはそれぞれの評価観点における評価尺度に応じた学習者の行動や態度やパフォーマンスの特徴を指し、評価そのものとなる。評価の水準を決定する作業は困難さがあったため、2018年度の「評価項目」を達成するにはどのような「評価対象」があるか、それに伴う「最高到達度」は何か、どのような能力を持っているべきか、それを示す証拠となることは何かを考え言語化し、評価観点における最高水準、最低水準となる指標を洗い出し、明文化していく作業を行った。評価対象ごとに評価基準を作成し、評価基準の表記は「～していた」「～している」など事実を述べる表記とした。

暫定的に試案としてルーブリック評価表案作成後、以下の振り返りを行った。

- 1) この課題を設定したのはなぜか
- 2) この課題はほかの内容とどう関連していくのか
- 3) この課題を遂行するために学生はどのような能力を持っていないといけないか
- 4) この課題を達成したとき学生はどのような証拠を残せばいいのか

5) この課題で学生に求める最高水準はどのようなものか。

6) この課題で不合格となる最低水準はどのようなものか。

これらの内容を基礎看護領域教員間で吟味し、精錬し、リストを作成し、評価観点の命名を行い、2019年度基礎看護実習目標、行動目標、評価観点(表2)および、2019年度基礎看護実習Ⅱルーブリック評価表(表3)を作成した。

Ⅲ. ルーブリック評価表を使用した結果

1. ルーブリック評価表の使用法

ルーブリック評価表はA3用紙に両面印刷し、学生は実習の中間の時期と最終日に自己評価を行った。最終カンファレンス終了後、指導者と教員は合議し、評価案を作成した。その後学生と教員は共に面談をしながら実習を評価した。実習最終日に達成できていれば評価は「4:できた」となる。面談では評価対象ごとに評価観点について達成状況を確認し、学生が評価した内容のフィードバックを行い、達成状況の確認と、不足部分の明確化から学生の内省を促進するような働きかけをする。学生自らが自己の課題に気づき、今後の学習を促進できる助言をし、リフレクションを行った。

2. ルーブリック評価表の使用後のアンケート調査結果について

1) 調査時期

基礎看護実習Ⅱの最終日以降の2019年8月から9月

2) 調査対象者

- (1) 2019年度基礎看護実習Ⅱを履修した2年生の学生 120名
- (2) 2019年度基礎看護実習Ⅱの実習指導をした担当教員 16名

3) 調査方法

教育支援システムのmanabaを使用し、実習終了後

にアンケート用紙を個別に配信し、回答を回収した。

4) 分析方法

統計処理はSPSSを使用し単純集計を行った。

5) 学生のアンケート調査結果(図1)

有効回答数は115人(有効回答率95.8%)で、以下の結果であった。

(1)「自分の実習がどこまでできているか、経過にあわせた判断がしやすい」

とてもそう思う34人、ややそう思う70人が89.9%を占めており、経過に合わせた判断がしやすいと思った学生が多かった。

(2)「自分の実習の改善点がわかりやすい」

とてもそう思う52人、ややそう思う56人が93.9%を占めており、自分の実習の改善点がわかりやすいと思った学生が多かった。

(3)「自分の実習の目標が明確になった」

とてもそう思う45人、ややそう思う60人が91.3%を占めており、自分の実習の目標が明確になったと思った学生が多かった。

(4)「どの教員が評価しても違いがないと思う」

とてもそう思う25人、ややそう思う48人で59.1%、どちらもいえない34人で29.6%、あまりそう思わない12人、全くそう思わない1人11.3%で、半分以上の学生がどの教員が評価しても違いがないと思っていた。

(5)「自分の実習の達成度がわかりやすい」

とてもそう思う41人、ややそう思う68人が94.8%を占めており、自分の実習の達成度がわかりやすいと思った学生が多かった。

(6)「自分の実習の妥当な評価ができる」

とてもそう思う40人、ややそう思う62人で88.7%、どちらもいえない10人で8.7%、あまりそう思わない3人11.3%で、8割以上の学生が自分の実習の妥当な評価ができると考えていた。

(7)「教員と指導者の評価に一貫性があると思う」

とてもそう思う 43 人、ややそう思う 51 人で 81.7%、どちらともいえない 17 人で 14.8%、あまりそう思わない 4 人 3.5%で、8 割以上の学生がどの教員や指導者が評価しても一貫性があると思っていた。

(8) 「自分の実習を評価するのに時間がかかる」

とてもそう思う 15 人、ややそう思う 39 人で 46.9%、どちらともいえない 28 人で 24.3%、あまりそう思わない 30 人、全くそう思わない 3 人 28.7%で、ほぼ半分の学生が自分の実習を評価するのに時間がかかると思っていた。

(9) 「自分の実習を評価するのに使いやすい」

とてもそう思う 37 人、ややそう思う 58 人で 82.6%、どちらともいえない 19 人 16.5%で、8 割以上の学生が実習を評価するのに使いやすいと思っていた。

(10) 「評価に困る項目があった」

いいえが 105 人 91.3%で、ほとんどの学生が評価に困る項目はないと答えた。

(11) 「文言がわかりにくい項目があった」

いいえが 111 人 96.5%で、ほとんどの学生が文言のわかりにくい項目はないと答えた。

6) 教員のアンケート調査結果 (図 2)

有効回答数は 13 人 (有効回答率 81.3%) で、以下の結果であった。

(1) 「学生の実習がどこまでできているか、経過にあわせた判断がしやすい」

とてもそう思う 3 人、ややそう思う 6 人で 69.3%、どちらともいえない 4 人 30.8%で、ほぼ 7 割の教員が経過にあわせた判断がしやすいと思っていた。

(2) 「学生の実習の改善点がわかりやすい」

とてもそう思う 6 人、ややそう思う 5 人で 84.7%、どちらともいえない 2 人 15.4%で、8 割以上の教員が学生の実習の改善点がわかりやすいと思っていた。

(3) 「学生の実習の目標が明確になった」

とてもそう思う 8 人、ややそう思う 5 人で 100%、全ての教員が学生の実習の目標が明確になったと思った。

(4) 「どの教員が評価しても違いがないと思う」

とてもそう思う 1 人、ややそう思う 8 人で 69.2%、どちらともいえない 4 人 30.8%でほぼ 7 割の教員がどの教員が評価しても違いがないと思っていた。

(5) 「学生の実習の達成度がわかりやすい」

とてもそう思う 8 人、ややそう思う 5 人で 100%、全ての教員が学生の実習の達成度がわかりやすいと思った。

(6) 「学生の実習の妥当な評価ができる」

とてもそう思う 5 人、ややそう思う 7 人で 92.3%、ほとんどの教員が学生の実習の妥当な評価ができると思っていた。

(7) 「他の教員や指導者と教育の考え方が共有できた」

とてもそう思う 6 人、ややそう思う 7 人で 100%、全ての教員が他の教員や指導者と教育の考え方が共有できたと思った。

(8) 「教員と指導者の評価に一貫性があると思う」

とてもそう思う 5 人、ややそう思う 6 人で 84.7%、どちらともいえない 2 人 15.4%で、8 割以上の教員が教員と指導者の評価に一貫性があると思っていた。

(9) 「学生の実習を評価するのに時間がかかる」

とてもそう思う 1 人、ややそう思う 4 人で 38.5%、どちらともいえない 2 人 15.4%、あまりそう思わない 6 人 46.2%で、4 割程度の教員が学生の実習を評価するのに時間がかかる、かからないと拮抗し思っていた。

(10) 「学生の実習を評価するのに使いやすい」

とてもそう思う 6 人、ややそう思う 5 人で 84.7%、どちらともいえない 2 人 15.4%と、8 割以上の教員が学生の実習を評価するのに使いやすいと思っていた。

(11) 「評価に困る項目があった」

いいえが 9 人 69.2%、はいが 4 人で 30.8%と 7 割程度の教員が評価に困る項目はないと答えた。

(12) 「文言がわかりにくい項目があった」

いいえが 13 人 100%で、全ての教員が文言のわかりにくい項目がないと答えた。

IV. まとめ

2019年度基礎看護実習Ⅱルーブリック評価表は2018年度基礎看護実習Ⅱ評価表を基に7つの実習目標と、行動目標からなる評価観点と2～4つの評価尺度を持った評価表として完成した。実際に使用し実施した学生と教員のアンケート調査結果からは、おおむね使いやすい評価表であるとの回答を得た。今回の作成の意義である担当する教員にとって、実習の到達度の明確さ、学生にとって到達目標や実施すべき内容が可視化でき理解しやすい評価であること、学生にとって不足部分のフィードバックが受けやすく改善点や目指す目標が明確になること、学生を正しく妥当性を持って評価すること、複数の教員で教育に関する考え方を共有しやすいこと、評価の一貫性があること、これらに関する回答は教員・学生共に肯定的な回答であった。一方で評価に時間を要すとの回答もあった。これはルーブリック評価の特徴である学生自らが自己の課題に気づく、フィードバックを含んだ評価方法で、従来の評価方法と異なるためだと考える。むしろ時間がかかるという回答からは、時間をかけて学生の内省を深めリフレクションが行えていたと言える。自由記載式の回答では学生からはわかりやすい、使いやすいとの回答が、教員からは評価基準に関する疑問や評価の重みづけに関する疑問があった。他にも評価観点、表現方法、評価基準において領域看護実習のルーブリック評価と基礎看護実習評価で統一できることがあれば、1年次から4年次へと継続性のある看護実習評価となり得るとの意見が寄せられた。これらの結果から、基礎看護実習評価を判断する評価表としては改善の余地があることが示され、ルーブリック評価の特性を活かし、学生の実習が継続的により有意義に実施でき、具体的な達成状況を判断できる評価表作成の示唆が得られた。

引用文献

- 1) 舟島なをみ、看護学教育における授業展開、医学書院、第1版、6-9、2013.
- 2) 森田敏子、上田伊佐子編、看護教育に活かすルーブリック評価実践ガイド、メジカルフレンド社、第1版、2-5、2018.
- 3) 前掲書2)、16.

参考文献

- 1) 糸賀暢子、元田貴子、西岡加名恵、看護教育のためのパフォーマンス評価、ルーブリック作成からカリキュラム設計へ、医学書院、第1版、2017.
- 2) 北川明編、看護学実習に役立つルーブリック作成法と実用例、日総研出版、第1版、2018.

表1：2018年度 基礎看護実習Ⅱの実習評価表

◆ 評価基準をもとに、下記の尺度で記載欄に○をつけてください。

【5：よくできた 4：できた 3：何とかできた 2：あまりできなかった 1：できなかった】

実習目標	評価項目	5	4	3	2	1
1. 患者・家族との人間関係を形成するために、円滑なコミュニケーションを図る。	1) 患者・家族を尊重した態度、言葉で対応できる。					
	2) 患者に関心を寄せ、主体的に関わることができる。					
	3) 患者の立場や状況を考慮して患者が話しやすい環境を整えることができる。					
	4) 患者・家族の話を傾聴することができる。					
2. 入院生活および健康障害、治療が患者に及ぼす影響について理解する。	1) 患者の生活背景（生活習慣、生活環境、社会的役割など）を説明できる。					
	2) 患者の現在の健康状態（既往歴、現病歴、症状など）や治療を説明できる。					
	3) 患者の日常生活行動の自立度を説明できる。					
	4) 患者が入院生活および病気に罹患したこと、治療についてどのように感じているかを説明できる。					
3. 患者の状態に応じた看護計画を立案する。	1) 患者の健康状態や生活状況を分析し、生活行動に関わる看護上の問題を明らかにできる。					
	2) 生活行動に関わる看護上の問題の解決に向けた具体的な看護目標を設定できる。					
	3) 看護目標を達成するための具体策を立案できる。					
4. 患者の健康状態を観察し、状態に応じた生活援助を実践する。	1) 患者の健康状態（バイタルサイン、症状など）を観察できる。					
	2) 患者の状態に応じた生活に関する援助を原理原則をふまえて実施できる。 〈環境の調整、食事、排泄、活動、休息、清潔、衣生活の援助〉					
	3) 実施した援助を評価し、次回の援助に活かすことができる。					
5. 看護学生として責任感をもって行動する。	1) 実習中に知り得た患者・家族および医療者の情報等に関して守秘義務を守ることができる。					
	2) 患者の安全を守るために必要な学習や日々の評価ができる。					
	3) 指導者の助言を真摯に受け止め、翌日の実習に活かすことができる。					
	4) 実習で関わるすべての人に対して、節度ある態度、言葉づかいで接することができる。					
	5) 実習を行うにあたっての規則（身だしなみ、時間、約束など）を遵守できる。					
6. 看護チームの一員として責任感をもって行動する。	1) 報告、連絡、相談を適切に行うことができる。					
	2) カンファレンスでメンバーや指導者の意見を傾聴できる。					
	3) カンファレンスに積極的に参加し、意見交換ができる。					
7. 実習を通して学んだことを振り返り自己の課題を明らかにする。	1) 実習を通して学んだことを整理して、振り返りシートに記載できる。					
	2) 実習の自己評価を行い、今後に向けて課題を明らかにできる。					

表2：2019年度 基礎看護実習目標、行動目標、評価観点

実習目標	行動目標	評価観点
目標1. 患者・家族との人間関係を形成し、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	1) 患者・家族を尊重した態度、言葉で対応できる。	1) 患者、家族への信頼の構築
	2) 患者に関心を寄せ、主体的に関わることができる。	2) 患者への関心を持った主体的な学生の取り組み状況
	3) 患者の立場や状況を考慮して、患者が話しやすい環境を整えることができる。	3) コミュニケーションのための環境調整
	4) 患者・家族の話を傾聴することができる。	4) 対象患者の傾聴の実践
目標2. 入院生活および健康障害、治療が患者に及ぼす影響について理解する。	1) 患者の生活背景（生活習慣、生活環境、社会的役割など）を説明できる。	1) 患者の生活背景（生活習慣、生活環境、社会的役割など）の理解
	2) 患者の現在の健康状態（既往歴、現病歴、病状等）や治療を説明できる。	2) 患者の現在の健康状態や治療の理解
	3) 患者が入院生活および病気に罹患したこと、治療についてどのように感じているかを説明できる。	3) 患者の入院生活、病気、治療への思いの理解
目標3. 患者の状態に応じた看護計画を立案し、評価する。	1) 患者の健康状態や生活状況の情報を収集し、解釈・分析できる。	1) 生活行動における情報の解釈・分析
	2) 患者の健康状態や生活状況を分析し、生活行動に関わる看護上の問題を明らかにできる。	2) 生活行動における情報の統合と看護上の問題の明確化
	3) 生活行動に関わる看護上の問題の解決に向けた具体的な看護目標を設定できる。	3) 生活行動における看護目標の明確化
	4) 看護目標を達成するための具体策を立案できる。	4) 生活行動における看護問題に対する具体策の立案
	5) 立案した生活行動における看護計画を評価できる。	5) 生活行動における看護計画の評価
目標4. 患者の健康状態を観察し、状態に応じた生活援助を実践する。	1) 患者の健康状態（バイタルサイン、症状など）を観察できる。	1) バイタルサイン測定の実施
	2) 患者の状態に応じた生活に関する援助を、原理原則をふまえて実施できる。（環境の調整、食事、排泄、活動、休息、清潔、衣生活の援助）	2) 患者に応じた生活援助の実施（環境の調整、食事、排泄、活動、休息、清潔、衣生活の援助）
	3) 実施した援助を評価し、次回からの援助に活かすことができる。	3) 実施した援助の評価修正
目標5. 看護学生として責任感をもって行動する。	1) 実習中に知り得た患者・家族および医療者の情報等に関して守秘義務を守ることができる。	1) 守秘義務の順守
	2) 患者の安全を守るために、必要な学習や日々の評価ができる。	2) 患者の安全のための自己学習
	3) 指導者の助言を内省し、翌日の実習に活かすことができる。	3) 助言に対する内省行動
	4) 病院施設すべての人に対して、節度ある態度、言葉づかいで接することができる。	4) 学習者としての態度
	5) 実習を行うにあたっての規則（身だしなみ、時間、約束など）を遵守できる。	5) 静岡病院における約束事項の遵守
目標6. 看護チームの一員として責任感をもって行動する。	1) 報告、連絡、相談を適切に行うことができる。	1) 報告・連絡・相談の実施
	2) カンファレンスにおいて、積極的に参加し、メンバーと意見交換し、他者の意見を傾聴できる。	2) カンファレンスの活用（積極的な参加、他者の意見の傾聴、意見交換の場）
	3) 自ら体調を整えて実習に臨み、体調の変化を報告できる。	3) 体調管理
目標7. 実習を通して学んだことを振り返り自己の課題を明らかにする。	1) 実習を通して学んだことを振り返って、最終レポートやルーブリックに記載できる。	1) 実習での学びの振り返り
	2) 評価面接で実習の自己評価を行い、今後に向けて課題を明らかにできる。	2) 自己評価と自己の課題の明確化

表3：2019年度 基礎看護実習IIルーブリック評価表

目標1. 患者・家族との人間関係を形成し、円滑なコミュニケーションを図ることができる (15点)

評価観点	評価対象	5. 良くできた (最高到達度)	4. できた	3. 何とかできた	1. 努力が必要
1) 患者・家族への信頼の構築 (4点)	行動	①敬意を持った態度として下記がすべてできた。 <input type="checkbox"/> 患者に毎回挨拶をした。 <input type="checkbox"/> 今日の予定を説明した。 <input type="checkbox"/> 患者の名前を正しく言えた。 <input type="checkbox"/> 何かを行う時は毎回患者に許可を得た <input type="checkbox"/> 同じ目線に対応した <input type="checkbox"/> まちがいは誠意をもって謝罪した <input type="checkbox"/> 患者の考えを聞いて実施した。 <input type="checkbox"/> 患者の希望を確認した。	左の項目のうち6項目以上できた。	左の項目のうち4項目以上できた。	患者や家族に対して敬意を持った態度でなかった。
		②年齢に考慮した言葉づかいとして、敬語や丁寧語に対応している。	助言や振り返りによって左記の対応をした。	助言や振り返りによって左記の対応が最終日までに改善した。	敬語や丁寧語を使わず対応した。
2) 患者への関心を持った主体的な学生の取り組み状況 (4点)	行動	①学生の取り組み状況について <input type="checkbox"/> 患者の会話や行動に関心をもって話を聞いた。 <input type="checkbox"/> 学生の方から積極的に、患者や家族に挨拶したり、話しかけた。 <input type="checkbox"/> 患者の様子を気にかけ、必要時には自ら決断して会話を中断できた。	左の項目のうち2項目できた。	左の項目のうち1項目できた。	学生から積極的な会話ができず、患者の考えや気持ちが理解できなかった。
		②主体的に患者の気持ちやニーズをケアに生かすために指導者に相談したり、 <i>カナル</i> で意見を求めることができた。	患者の気持ちやニーズをケアに生かすために指導者に相談した。	促されて、左記について指導者に相談した。	促されても先の内容を相談したり、 <i>カナル</i> で意見を求めなかった。
3) コミュニケーションのための環境調整 (4点)	行動	①安心して話せる環境かを患者に確認した。 <input type="checkbox"/> 会話の内容を考えて声を落とし、場を変えるなどの配慮をした。	助言や振り返りによって左記の対応をした。	助言や振り返りによって左記の対応が最終日までに改善した。	話しやすい環境を考えなかった。
		②患者の状況や患者家族の予定や面会時間などを考慮して会話の時間や場所を選択した。	助言や振り返りによって左記の対応をした。	助言や振り返りによって左記の対応が最終日までに改善した。	患者の気持ちや時間を考えなかった。
4) 対象患者の傾聴の実践 (3点)	コミュニケーション時の行動	①下記の技法を患者に合わせて使用した。 ・言語的コミュニケーションの技法を使用した。 <input type="checkbox"/> オープンクエスチョン <input type="checkbox"/> クローズドクエスチョン <input type="checkbox"/> オウム返し <input type="checkbox"/> 言葉換え ・非言語的コミュニケーションの技法を使用した。 <input type="checkbox"/> 目線 <input type="checkbox"/> 言葉の抑揚 <input type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 相手との距離 ・傾聴の技法を使用した。 <input type="checkbox"/> 沈黙 <input type="checkbox"/> 相槌 <input type="checkbox"/> 繰り返 <input type="checkbox"/> 明確化	助言や振り返りによって左記の技法を使用した。	助言や振り返りによって左記の技法を最終日までに使用した。	コミュニケーション技法を使用できなかった。
		②患者や家族の話を遮ることなく、最後まで話を聞いた。	助言や振り返りによって左記の対応をした。	助言や振り返りによって左記の対応が最終日までに改善した。	患者の話を遮り自分の話だけをした。
		③分からないことは患者の気持ちに配慮しながら聴き直したり、確認した。	助言や振り返りによって左記の対応をした。	助言や振り返りによって左記の対応が最終日までに改善した。	患者の気持ちに配慮をしなかった。

目標2. 入院生活および健康障害、治療が患者に及ぼす影響について理解する。(14点)

評価観点	評価対象	5. 良くできた (最高到達度)	4. できた	3. 何とかできた	1. 努力が必要
1) 患者の生活背景 (生活習慣、生活環境、社会的役割など)の理解 (5点)	行動	①入院前の生活背景の以下の情報をとるために、患者から話を聴いたり、指導者や医師から情報を得たり、カルテを見た。 生活背景: <input type="checkbox"/> 生活習慣、 <input type="checkbox"/> 家族構成、 <input type="checkbox"/> 居住地の環境、 <input type="checkbox"/> 仕事や家族内での役割	助言や振り返りによって左記の情報を得た。	助言や振り返りによって左記の情報を不足はあるが最終日までに得た。	情報を得る行動をしなかった。
	スクリーン活用状況	②入院前後の生活背景の以下の変化についての考えを日々のカンファレンスの中で説明した。 生活背景: <input type="checkbox"/> 生活習慣、 <input type="checkbox"/> 家族構成、 <input type="checkbox"/> 居住地の環境、 <input type="checkbox"/> 仕事や家族内での役割	助言や振り返りによって左記の考えを説明した。	助言や振り返りによって左記の考えを不足はあるが最終日までに説明した。	説明をしなかった。
2) 患者の現在の健康状態や治療の理解 (4点)	行動	①患者の現在の健康状態 (既往歴、現病歴、病状等) や治療について <input type="checkbox"/> 患者から話を聴いたり、指導者や医師から情報を得たり、カルテを見て情報が取れた。	助言や振り返りによって左記の情報を得た。	助言や振り返りによって左記の情報を不足はあるが最終日までに得た。	情報を得る行動をしなかった。
	レクシブ活用	②患者の現在の健康状態 (既往歴、現病歴、病状等) や治療について <input type="checkbox"/> 計画発表やカンファレンスの中で説明した。	助言や振り返りによって左記の考えを説明した。	助言や振り返りによって左記の考えを不足はあるが最終日までに説明した。	説明をしなかった。
	自己学習	③患者の現在の健康状態 (既往歴、現病歴、病状等) や治療について <input type="checkbox"/> 自己学習した。(知識ノート、他自己学習ノート)	助言や振り返りによって左記を学習した。	助言や振り返りによって左記を最終日までに学習した。	自己学習をしなかった。
3) 患者の入院生活、病気、治療への思いの理解 (5点)	行動	①入院や病気や治療による変化 (生活、役割、体調、経済状況) を患者がどのように感じているのかについて <input type="checkbox"/> 患者から話を聴いたり、指導者や医師から情報を得たり、カルテを見て情報を得た。	助言や振り返りによって左記の情報を得た。	助言や振り返りによって左記の情報を不足はあるが最終日までに得た。	情報を得る行動をしなかった。
	カンファ活用	②入院や病気や治療による変化 (生活、役割、体調、経済状況) を患者がどのように感じているのかについて <input type="checkbox"/> 計画発表やカンファレンスの中で説明した。	助言や振り返りによって左記の考えを説明した。	助言や振り返りによって左記の考えを不足はあるが最終日までに説明した。	説明をしなかった。

目標3. 患者の状態に応じた看護計画を立案し、評価する。(15点)

評価観点	評価対象	5. 良くできた (最高到達度)	4. できた	3. 何とかできた	1. 努力が必要
1) 生活行動における情報の解釈・分析 (3点)	記録	①患者の健康状態や生活状況の情報から、充足・未充足を解釈・分析した。 <input type="checkbox"/> その状態が正常か異常か、 <input type="checkbox"/> 生活に変化があったのか、 <input type="checkbox"/> 患者のニーズは何か、 <input type="checkbox"/> 患者の自立度の状況、 <input type="checkbox"/> 健康の回復を妨げる原因、 <input type="checkbox"/> 今後予測される事、 <input type="checkbox"/> 根拠となる事 (看護過程ワークブックP22の内容を踏まえている) (記録様式2)	左記の内容を最終日までに記録した。	左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	記録していない。
2) 生活行動における情報の統合と看護上の問題の明確化 (3点)	記録	①患者の健康状態や生活状況から、現在及び今後予測される、患者の生活行動 (食事、排泄、活動と休息、清潔、衣生活など) に関わる問題について ・解釈・分析とともに看護上の問題を3個以上明らかにした。(記録様式3、4)	左記の内容の看護問題を1個以上最終日までに記録した。	左記の内容を不足はあるが1個以上最終日までに記録した。	記録していない。
3) 生活行動における看護目標の明確化 (3点)	記録	①明らかになった患者の生活行動に関わる問題に対して、解決可能な目標を設定した。 ・目標は、数値・指標など具体的なもので、誰が評価しても同じ評価となる表現にした。 ・目標の設定は、 <input type="checkbox"/> 1~2週間で評価できるように設定した。 <input type="checkbox"/> 評価日を付けた。(記録様式5)	左記の内容を最終日までに記録した。	左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	記録していない。
4) 生活行動における看護問題に対する具体策の立案 (3点)	記録	①具体策は <input type="checkbox"/> 問題毎に解決に向けた内容にした。 <input type="checkbox"/> 計画は5W1Hが明らかで、誰が読んでも実施できる表現で書いた。(記録様式5)	左記の内容を最終日までに記録した。	左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	記録していない。
5) 生活行動における看護計画の評価 (3点)	記録	①記録提出時までに立案した看護計画を以下に沿って評価をした。 <input type="checkbox"/> 実施した援助計画の患者への効果、その理由 <input type="checkbox"/> 患者の回復力や変化の有無、その理由 <input type="checkbox"/> 計画によって設定した目標は達成されたのか (記録様式5)	左記の内容のうち2項目記録した。	左記の内容のうち1項目記録した。	記録していない。

目標4. 患者の健康状態を観察し、状態に応じた生活援助を実践する。(18点)

評価観点	評価対象	5.良くできた(最高到達度)	4.できた	3.何とかできた	1.努力が必要
1) バイタルサイン測定の実施(6点)	体温測定の実施	①指導を受けながら体温測定部位、体温に影響を与える状況に配慮して誤差なく測定した。 □体温計の腋窩の角度は30～45度だった。 □腋窩中央にセンサーを密着させた。 □運動後、食後でなく測定値が変動しない安静時に測定した。	指導を受けて左記のうち2項目実施できた。	指導を受けて左記のうち1項目実施できた。	測定しない。
	呼吸数の実施	②呼吸数、脈拍数を誤差なく測定した。 □呼吸数を測定するため患者に測定時間を説明した。 □呼吸数、脈拍数は1分間測定した。 □運動後、食後でなく測定値が変動しない安静時に測定した。	指導を受けて左記のうち2項目実施できた。	指導を受けて左記のうち1項目実施できた。	測定しない。
	血圧測定の実施	③血圧測定を誤差なく測定した。 □血圧測定時のマンシェットの位置、ゆるみを確認した。 □加圧、減圧速度に気をつけて誤差が少なく測定した。 □運動後、食後でなく測定値が変動しない安静時に測定した。	指導を受けて左記のうち2項目実施できた。	指導を受けて左記のうち1項目実施できた。	測定しない。
	記録	④指導者に助言を受けながら観察した測定値をフィジカルアセスメントの授業を踏まえ記録した。(記録様式6)	指導をうけ左記の内容を最終日までに記録した。	指導を受けて左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	記録していない。
2) 患者に応じた生活援助の実施(環境の調整、食事、排泄、活動、休息、清潔、衣生活の援助)(6点)	記録	①日々の行動計画は下記の患者の生活行動に関わる患者に必要な援助を記録した。 □観察 □ケアポイント □根拠(記録様式1)	指導を受けて左記の内容のうち2項目記録した。	指導を受けて左記の内容のうち1項目記録した。	記録していない。
	援助の実施	②指導者の助言のもと、患者の自立度を考慮し、自立を助ける方法をとった。	指導を受けて左記の内容を最終日までに実施できた。	指導を受けて左記の内容を最終日までに実施できた。	実施していない。
	援助の実施	③援助を実施する際には、患者の安全安楽に留意し、生活援助技術の授業を踏まえ、原理原則に沿って実施した。 (湯の温度、ボディメカニクス、ベッド欄の使用、熱傷防止対策など)	指導をうけ左記の内容を最終日までに実施した。	指導を受けて左記の内容を不足はあるが最終日までに実施した。	実施していない。
3) 実施した援助の評価修正(6点)	記録	①実施した援助の評価は当日中に行い、口頭及び書面に記載し振り返った。前回の援助の評価を次の実施や翌日の計画に反映し口頭及び書面にした。(記録様式1)	指導をうけ左記の内容を最終日までに記録した。	指導を受けて左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	記録していない。

目標5. 看護学生として責任感をもって行動する。(20点)

評価観点	評価対象	5.良くできた(最高到達度)	4.できた	3.何とかできた	1.努力が必要
1) 守秘義務の順守(4点)	行動	①実習で知り得た患者や家族、医療者についての個人情報、実習中以外に他言しなかった。			実習で知り得た患者や家族、医療者についての個人情報を他人に話した。
	行動	②実習記録やメモなどを紛失しないように配慮して決められた場所に置き、机の上などに放置しなかった。			実習記録やメモなどを放置した。
	行動	③実習記録を、公共の場(病院や本学以外の図書館、レストラン、電車やバスの中など)では行わなかった。			実習記録を、公共の場でおこなった。
2) 患者の安全のための自己学習(4点)	看護技術の確認行動	①学内練習日に学んだ看護技術の練習をし、安全に実施できるかを確認した。			学んだ看護技術の練習をしなかった。
	事前学習	②患者の状態を理解するために必要な学習をして疑問点を明確にし、指導者に質問できた。	指導を受け最終日までに指導者に質問し、疑問点を明確にした。	指導を受け最終日までに指導者に質問し、不足はあるが疑問点を明確にした。	患者の状態を理解するための必要な学習をしなかった。
	記録	③安全に実施できたか患者の反応を中心に、評価・検討を行い記録した。(記録様式1)	左記の内容を最終日までに記録した。	左記の内容を不足はあるが最終日までに記録した。	安全に実施できたか評価・検討も記録しなかった。
3) 助言に対する内省行動(4点)	助言を受け度	①助言を受ける態度は □指導者や医療スタッフからの助言を受け自分の行動を振り返った。 □素直な気持ちで助言を聞いた			指導者や医療スタッフからの助言を受けたが、自分の行動を振り返らなかった。
	内省後の変化	②受けた助言を次の援助に活かした。			受けた助言を援助に活かしたり、改善点を指導者に報告しなかった。
	助言を受け度	③助言内容でわからないことは質問して明らかにした。			助言内容についてわからなくても、明らかにしなかった。
4) 学習者としての態度(4点)	挨拶	①実習に関わらないすべての職員に、場と状況に合わせて挨拶をした。			場と状況にあった挨拶をしなかった。
	行動	②病院内の施設(売店や更衣室など)では、周囲に目を配り、私語を控え、他人への配慮をした。			配慮しなかった。
5) 静岡病院における約束事項の遵守(4点)	身だしなみ	①看護学生としてふさわしい清潔感のある身だしなみを整えている。 □髪 □爪 □化粧 □白衣 □靴 □靴下 □名札 □姿勢(腕組、頬杖)			左項目のうち不足があった。
	行動	②「静岡病院における約束事項」を守っていた。			約束事項を守れなかった。

目標6. 看護チームの一員として責任感をもって行動する。(9点)

評価観点	評価対象	5.良くできた(最高到達度)	4.できた	3.何とかできた	1.努力が必要
1) 報告・連絡・相談の実施(3点)	報告の実施	①病棟を離れるときには、教員や指導者などに行き先を告げ、戻ったら報告をした。			左記報告をしなかった。
	報告の実施	②患者の状態がいつもと違い、何か変だと感じたらすぐに指導者あるいは教員あるいは病棟スタッフに報告した。			左記報告をしなかった。
	相談の実施	③分からないこと、気がかりなことなどは、自分だけで悩まずに指導者あるいは教員に相談した。			左記相談をしなかった。
	連絡の実施	④教員や指導者から学生間に連絡をして欲しいと言われたことは、全員に確実に伝えた。			左記連絡をしなかった。
2) カンファレンスの活用(積極的な参加、他者の意見の傾聴、意見交換の場)(3点)	カンファレンスでの参加	①カンファレンスに積極的に参加した。 □他者の意見を傾聴した。 □自分の意見を明確に伝えた。	左項目のうち1項目行った。		左項目を行わなかった。
	カンファレンスでの役割	②カンファレンスでの役割遂行 □司会や書記の役割は自ら進んで行った。 □メンバーのときは司会者に協力し意見交換がスムーズに進むように努めた。	左項目のうち1項目行った。		左項目を行わなかった。
3) 体調管理(3点)	出席状況	①自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席した。 あるいは、体調がすぐれないとき自ら申し出て必要な対処をした。			左項目を行わなかった。

目標7. 実習を通して学んだことを振り返り自己の課題を明らかにする。(9点)

評価観点	評価対象	5.良くできた(最高到達度)	4.できた	3.何とかできた	1.努力が必要
1) 実習での学びの振り返り(5点)	記録	①最終レポートにおいて以下の項目を記載した。 □実習中に印象に残ったでき事をありのままに記載した。 □それについて何を考え、何を感じたのか記載した。 □この経験の何がよくて、何が悪いのか考え記載した。 □今後の課題について記載した。	左記を3項目記載した。		提出しなかった。
	記録	②実習の自己評価を行い、自己評価表に記載した。			記載しなかった。
2) 自己評価と自己の課題の明確化(4点)	評価面接	①評価面接において以下の項目についてルーブリックに基づき、振り返り説明した。 □実習中に印象に残ったでき事をありのままに説明した。 □それについて何を考え、何を感じたのか説明した。 □この経験の何がよくて、何が悪いのか考え説明した。 □自己の課題について説明した。			面接で振り返りができなかった。

図1：学生のアンケート調査結果

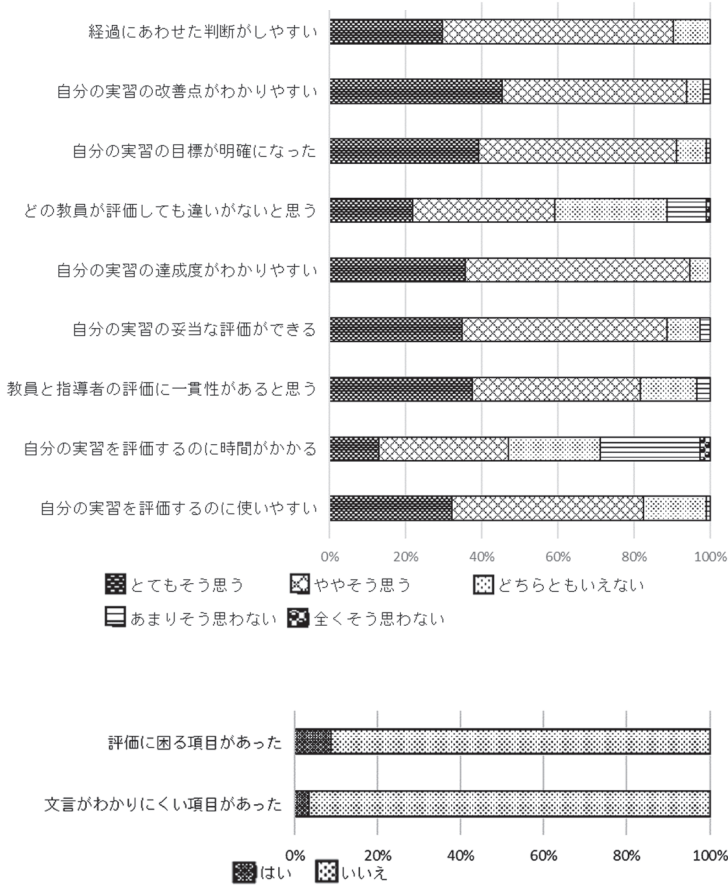


図2：教員のアンケート調査結果

